

学校評価の考察

1. 教職員 54名の回答

- (1)26の設問中23項目で概ね90%以上が「水準を満たしている・上回っている」という結果でした。
- (2)全体に関わる設問のうち特に「Q2:指導における工夫・専門性」「Q3:勤労意欲へつながる取り組み」「Q11:いじめや問題行動の未然防止」等において95%以上の肯定的な評価がありました。生徒の就労のための実態把握チェック項目(就労アセスメントツール BWAP2)を導入するなど、今後も教職員の専門性向上に向けた取り組みを進めて参ります。
- (3)反面、昨年同様「Q7:ICT教育の充実」で、26%が「水準を下回っている」と自信のなさが評価に現れております。教職員一人一台タブレットも今年度1月から導入されました。今後も実用的な活用推進研修やOJTによる資質向上の工夫等により、教職員が自信を持ってICT教育を実践できるよう努めてまいります。
- (4)また、「Q9:障害者雇用制度や生徒の進路先について」で、22%が「水準を下回っている」と評価しています。「進路指導の手引き」冊子配布と合わせて、教職員の研修の時間をこれまで以上に確保し、教職員向けの講話を実施、外部機関での研修の推進等に取り組み、今後も教職員の資質能力の向上に向けた取り組みを行って参ります。

2. 保護者 67名の回答

- (1)29の設問のうち27の項目で90%以上が「良好」という回答結果から、本校の教育にご理解とご協力いただいている様子がうかがえます。
- (2)特にQ10,Q11の就業体験、Q15の授業、Q25・Q26の寄宿舍行事・活動について設問では全保護者から良い評価をいただいております。
- (3)また、新たな取り組みであるQ9自立活動の時間(7校時)での生徒の課題に応じた活動の導入Q28舎でのスマホ利用の開始、についても高い評価が得られております。
- (3)しかしながら「Q27 3年生から「寄宿舍を利用せずに、自宅から通学することを認める」で10.4%、Q29:男女交際において、男女が2人で会うことについて、学校が校則で制限しない」に16.6%の良いとは思わないとの意見がありました。自宅からの通学生への生活指導、男女交際についての指導等について検討し、その在り方について保護者と共有する必要があります。

3. 生徒 109名の回答

- (1)29の設問のうち26の項目で80%以上が「良好」という回答結果でした。
- (2)Q7:学校の施設・設備に対する「水準を下回っている」が**30.2%**と突出して悪い評価でした。県教育庁の担当課と調整の結果、寄宿舍の畳の全面張替えを前年度3月に行いました、また今年度内に懸案だった寄宿舍のクーラーの大規模修理及び行う予定です。今後も校舎、寄宿舍の施設改善について関係課と連携していきたいと思っております。
- (3)Q18:「学校での特別指導」への不満(21%)、Q20:「寄宿舍での日課指導」への不満(20%)は指導を受けた生徒の本音のようです。また、Q24:「教職員がカウンセリング的な姿勢で話を聞く」についての不満は昨年度の19%から7%に減少していることから、教職員の生徒の話を聞く姿勢については改善されていると考えられます。生徒自身が「なぜ指導を受けているのか」「指導を受けることで何が改善できるのか」「就職して働き続けるにはどのような力が必要でどのような行動をとるべきなのか」を理解できるような指導の在り方を研究する必要があります。

4. まとめ

- 今回、浮き彫りとなった本校職員の「ICT活用」、「障害者雇用制度等の理解啓発」に今後努めてまいります。
- また、『「学校での特別指導」「寄宿舍での日課指導」「男女交際の在り方」「3年生からの自宅通学」について教職員・生徒・保護者が共通理解し、人権を踏まえた学校生活を通して就職し働き続ける力を身につける学校・寄宿舍をめざします。